

令和6年度 青少年育成地域懇話会

専門家の講話を基に、地域の青少年育成関係者と住民が意見交流を通して、こどもを取り巻く課題について理解を深めました。今年度は標茶町と知内町に協力をいただき開催しました。

標茶町

「不登校支援を考える」～子どもの目線、保護者の目線、関係機関の目線から～



日時 令和6年10月24日（木） 14:30～16:30

場所 標茶町開発センター

共催 標茶町青少年健全育成推進連絡協議会 標茶町生徒指導連絡協議会

講話 講話 講話 「保護者の目線、学校の目線、関係機関の目線から」

～事例から見るこども家庭支援センターと不登校支援～

講師 釧路こども家庭支援センター センター長 笠井 雄二 氏

講話概要

- ・不登校児童生徒は、人と関わるのが不安、集団での立ち位置がわからない、登校したいけどできない理由がわからないのでそっとしてほしいと思っている。
- ・保護者は、学校へ行きたくない気持ちを受け止め、話をよく聴いてあげる。母親は子育ての不安を抱え孤立化が見られる。
- ・学校は、保護者とつながる努力をすること、学校全体で対応すること、こどもがSOSを出せるように普段から関係作りに努めることが重要である。
- ・関係機関は、中学校卒業後の不登校支援、関係機関との連携に努め、福祉的アプローチも必要である。

コーディネーター ネイパル厚岸グループ 社会教育主事 成田 悠希 氏

意見交流

- ・担任一人で抱え込まないで、学校全体で情報を共有し対応していく。
- ・中学生になって不登校、兄弟どちらかが不登校になると両方とも不登校になったことから、小中連携の取組が大切である。
- ・不登校の生徒が高校に進学したが、その後どうしているのかわからなくなった。高校進学や将来について保護者と十分話し合いをする。
- ・教育委員会や関係機関など関わる人を広げていく。そのことが保護者の信頼を得ることにつながる。

知内町

「子どもの豊かな心を育てるために」～子どもの伸ばし方～



日時 令和7年2月17日（月） 18:00～20:00

場所 知内町中央公民館

共催 知内町青少年育成町民会議

講話 講話 講話 「ポジティブ行動支援で広がる子どもの可能性」～効果的なほめ方の実践～

講師 北海道教育大学教職大学院 教授 杉本 任士 氏

講話概要

- ・「ポジティブ行動支援」とは、大人の皆さんの前向きな支援・指導で、こどもたちのステキ（ポジティブ）な行動が育まれること。
- ・行動が生まれるきっかけとして、大人からの支援・支えにより安心や心理的な安全を感じ、こどもは様々なことにチャレンジ出来る。
- ・またこども達には、①自己有用感、②自己肯定感、③自尊感情を高める支援・きっかけをつくってほしい。自己肯定感が高いと、豊かな心を育むことにつながる。
- ・“ステキ（ポジティブ）な行動”が増えると、相対的に“ザンネンな行動”が減る。
- ・そして、“ステキな行動”を適切にほめることで、こどもは「自分には価値がある」と実感する。なお、親・先生・大人にとって都合のいいほめるは、こどもが大人の顔色をみて行動することにつながるため、気をつけてほしい。
- ・「ほめること」は、こどもの自信や意欲を育む大切なプロセス。「ポジティブ行動支援」により、こどもたちの可能性は無限に広がる。

コーディネーター 渡島教育局教育支援課社会教育指導班社会教育主事 松田 夕紀 氏

意見交流

- ・ネットの普及により、リアル（現実）な友達との交流や地域の大人との交流がなくなっている。
- ・友達とのやりとりが画面越しであるため、その人の表情や感情が見えない中で交流している。その分、リアルに友達とトラブルがあった時に対応できない子が多い。
- ・人間関係に深入りしない子が多くなっている気がする。
- ・大人には、こどもたちが出来た事にはその場でほめる、困り事や間違っただけには一緒に原因を探っていき、正しい道に導いてあげることが大切。大人が寄り添うことで、こどもたちの安心につながる。